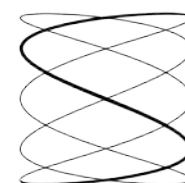




「宇宙利用の現在と未来に関する懇談会」向け資料

2020.8.12



Dentsu
Space
Lab

電通宇宙ラボ
薬師寺 肇

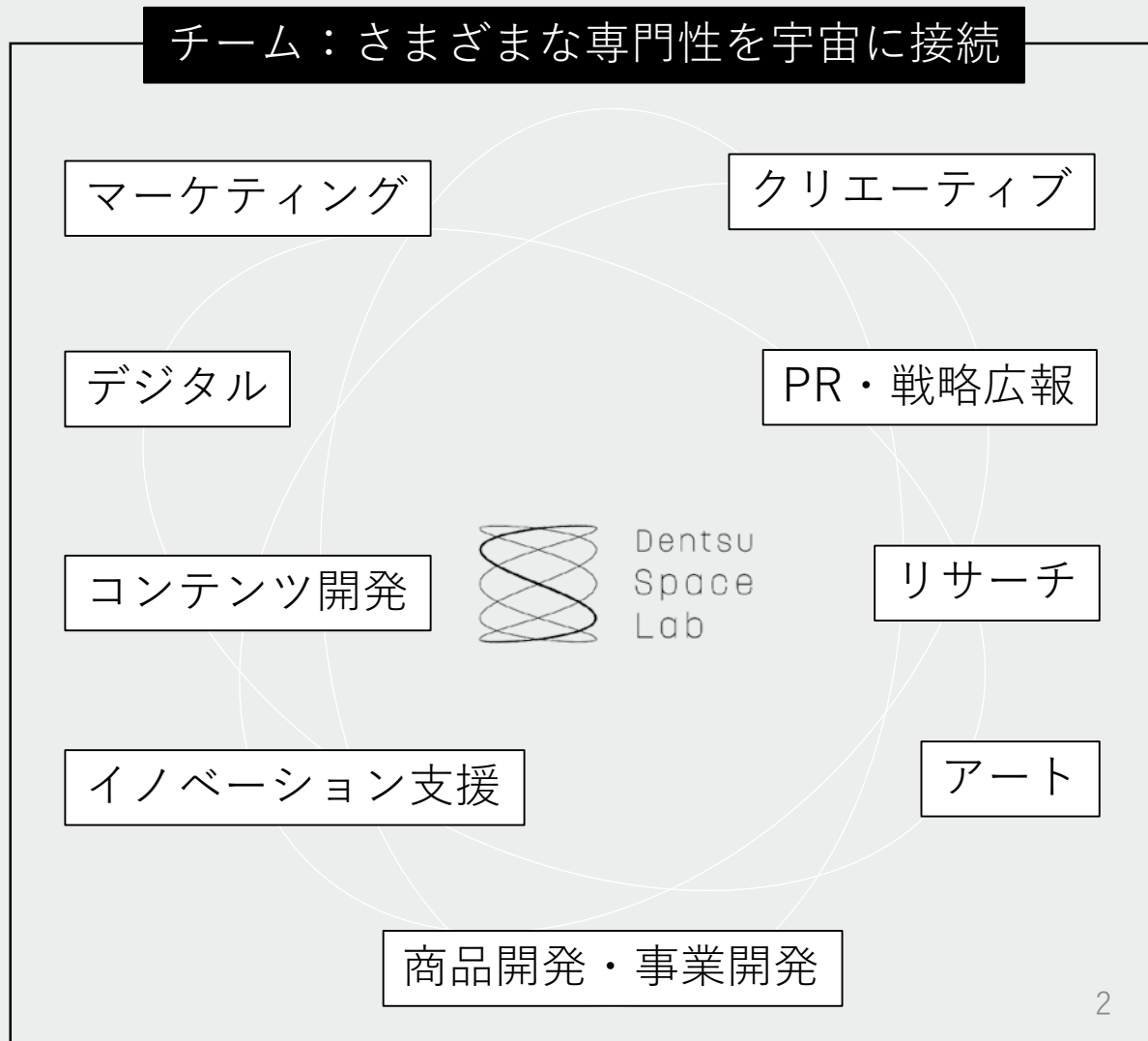
電通宇宙ラボ

- ・ 宇宙と地上の新しい接点を作り出すことで「宇宙の“拡張”」を行うことがミッション
- ・ 宇宙を軸に電通社内外のさまざまな専門人材から成る領域横断型チーム
- ・ JAXA、宇宙ベンチャー、企業、コンテンツホルダー等をアイデアでつなぎ、これまでにない宇宙活用/価値創出を実行

ミッション：「宇宙の“拡張”」



チーム：さまざまな専門性を宇宙に接続



アジェンダ

いただいたテーマ

想定タイミング

本日本話したいこと

①官民の様々な宇宙動向を踏まえた宇宙開発利用の未来

— 2040～2050年

※「宇宙利用の現在と未来に関する懇談会」の検討背景資料より

▶ 広告・コミュニケーション業界視点での宇宙開発利用の可能性

②特にNew Normalにおける宇宙開発の貢献

— 現在～1、2年後

▶ 生活者意識調査の結果と、今、宇宙開発に求められること

③宇宙開発利用を我が事として感じてもらうための広報

— 現在

▶ 現状の課題と、これから狙うべき方向

※ 本日本話する順番

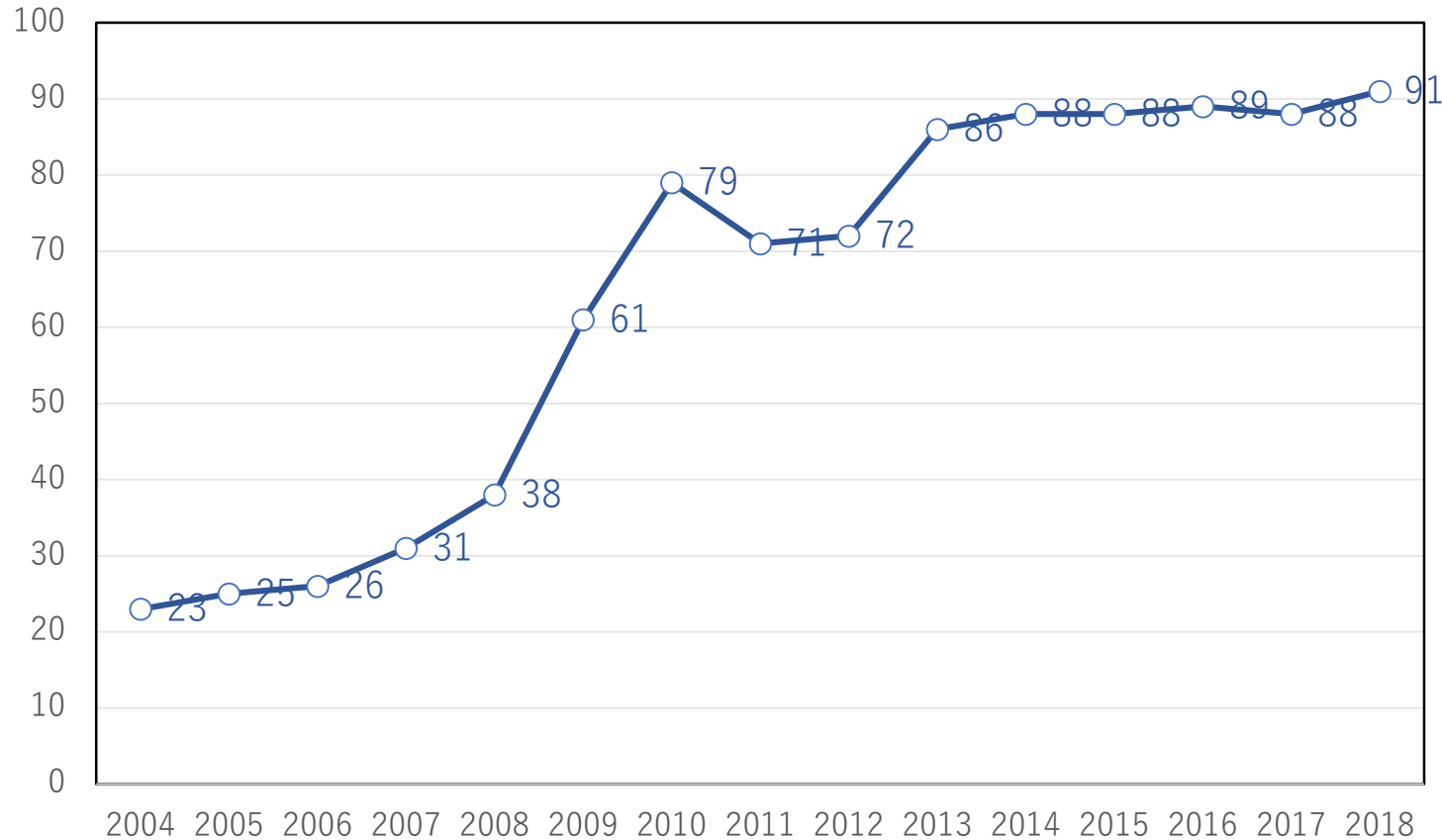
宇宙開発利用の広報について

現状の課題と、これから狙うべき方向

宇宙/宇宙開発に関連する意識

- ・ JAXAの名称認知率は90%前後と極めて高い水準を維持
- ・ 一方、特定の人工衛星など個別プロジェクトの名称認知率は大幅に低い

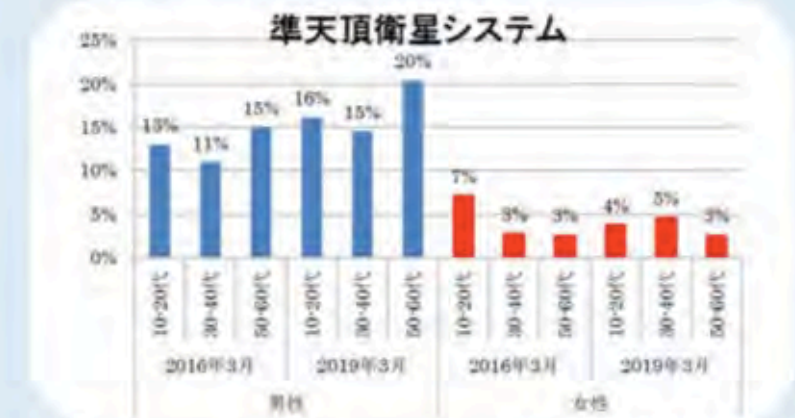
「JAXA」名称認知率推移 (%)



(データ：JAXA報道関係者向け資料を元に作成)

「準天頂衛星システム」の認知率

日本では、「準天頂衛星システム」の認知度は男女間に差があり、男性でもせいぜい20%。



(出典：NISTEP 2019年)

- 米国では、宇宙に関する関心度・理解度は高い。
- ・ 米が宇宙探査のリーダーであり続けることは重要 (72%)。ISSは良い投資 (80%)。宇宙探査のNASAの役割は引き続き重要 (65%)。
 - ・ 宇宙企業は利益を上げると確信 (81%)。
- (出典：米ピュー・リサーチ・センター 2018年)

(画像：「宇宙利用の現在と未来に関する懇談会」の検討背景 から転載)

「名前は知っているが、それ以上は知らない」空洞認知

現状

- ・ 認知の先にあるべき理解、共感、支持など、より高い関与状態へとつながっていない
- ・ 既に知っていることが、それ以上の関与の足かせになっていることも
- ・ 「JAXA」だけでなく「宇宙」でも似た状況
- ・ 「宇宙」は全員認知。「宇宙はすごい」「宇宙はおもしろそう」等が多いものの、その先の具体的内容には続きにくい



主な原因

- ・ 宇宙自体の認知/興味から、宇宙開発の認知/興味への拡張不足
- ・ 宇宙開発の速度と差分の見えづらさ。安定して成功するほど注目が減る皮肉な状況も
- ・ 宇宙との直接接点は限定されている。GPS/天気予報など宇宙を活用した身近なものはあるが、それらにおいて宇宙は既に機能の中に埋没
- ・ 統一的宇宙ファンコミュニティ、及びその育成リードの不在

ポジティブな潮流と、その広報活用

- ・ 国内宇宙ベンチャー増加、宇宙の仕事の増加
- ・ JAXAと企業の協業も増加 (J-SPARC、Space Food X / SPACE FOODSPHERE、THINK SPACE LIFE etc.)
- ・ 宇宙関連の枠組み、プロジェクトも増加 (S-Booster、Space Port Japan etc.)
- ・ 国際宇宙ステーションの商業利用拡大など、民間参入チャンス増加



宇宙と関わることができる接点、組織、人材の増加



宇宙への関心層を拡大する広報 → 宇宙の関係者を拡大する取り組み



関係者拡大の事実を広報

宇宙関係者を増やしていくために

企業で

- ・ 宇宙をマーケットとして
- ・ 技術実証の場として
- ・ 研究開発のテーマ
- ・ 他社との共創の場として
- ・ PR/ブランディングとして

・ さまざまな業界の企業の中に“宇宙隣接領域”セクションを

・ 官民共同で進める月面開発はわかりやすい目標

教育機関（主に大学・高専）で

これまで、宇宙開発につながる学問分野は専ら宇宙工学。関連して機械工学など一部

・ 月面開発においてはあらゆる学問分野が関わってくる

・ 既存の学問分野の中に“宇宙隣接領域”分野を

個人（～高校）で

現状では児童や学生が宇宙に興味を持ったとき、行動に移せること、情熱を努力にしていける受け皿が皆無

・ 宇宙開発や宇宙飛行士訓練カリキュラムの一般教育への応用（既に増進会+SpaceBD+JAXAの取り組みあり）

・ 宇宙飛行士適正テスト、宇宙飛行士選抜模擬試験 etc.

(非宇宙系) 企業と宇宙の“ファーストコンタクト”作り例

未来共創会議 (2016年実施)



JAXAが持つ宇宙開発技術（上図は船外活動用宇宙服）をコト視点で機能分解することで、企業の既存研究領域との接点を見つけやすくした

Space Port Japan ワークショップ (2019年実施)



(右下画像：Space Port Japan 発表資料)

宇宙港利用ユーザーの体験視点で宇宙旅行前後にありうるビジネス・サービスを発想

宇宙ベンチャーの 協賛



(HAKUTO-Rの協賛スポンサー web電通報)

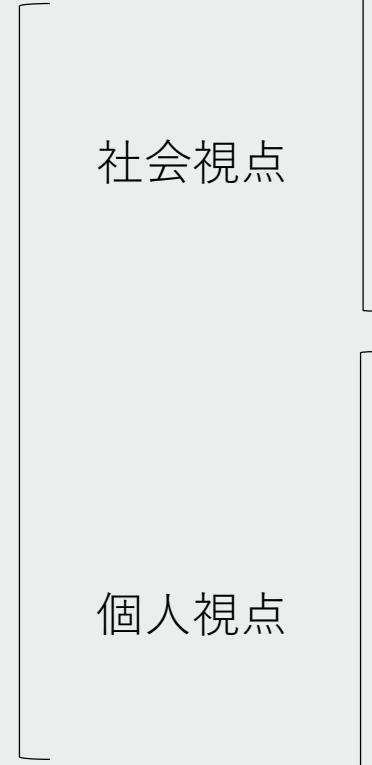
露出機会の確保だけでなく、月面探査への技術協力や月面での実験機会の獲得も

New Normalと宇宙開発の貢献

「after/withコロナ・New Normal」の中で今、宇宙開発に期待されること

New Normalへのシフトと宇宙開発

コロナの影響・
New Normalへのシフト



- 経済・産業
- 医療
- 交通・物流
- 都市開発・街づくり
- 文化・芸術
- メディア etc.

- 行動面
- 仕事
 - 消費
 - 家事・育児
 - 移動
 - 余暇
 - 健康管理 etc.

意識心理面

宇宙開発
接点・影響

本日はこの関係に着目